

2026年  
新春

# どうそ 満 議員活動報告



発行責任者 道祖 満  
飯塚市鯉田2525-44  
TEL 25-3280

飯塚市議会議員

つくります!  
newしいづがライフ

どうそ 道祖 満

## 令和8年（2026年）

### 新春のお喜びを申し上げます。

皆様お元気ですか。

令和8年（2026年）が、始まりました。今年は暦では午年になりますが、わたしは、昭和29年（1954年）の午年生まれですので6回目の年男となります。

昨年の飯塚市議会では、江口徹議長に対する不信任決議、6月・9月・12月定例会市議会における3回の議長辞職勧告決議が全て可決された過去に例を見ない混迷する議会となりました。

地方自治法では、議長の任期は議員の任期（原則4年）ですが、1市4町が合併後の飯塚市議会では、円滑な議会運営を考え2年以内で議員間の選挙で議長を選出して来ています。議長が市議会を構成する多くの議員から信任されている状況では、円滑な議会運営を行うことが可能ですが、議長として大多数の議員から信頼できないと、不信任決議が可決され、議長職から辞職することを求める決議が可決される状況では、議長は円滑な議会運営を行うことは出来ません。



飯塚市議会は、このような状況の中で新しい年を迎えましたが、今年は飯塚市の2027年から2036年までの今後10年間の総合的なまちづくりを進める指針となる「第3次飯塚市総合計画」を策定する大事な年です。

今年も市民の皆様の生活が安全・安心して営まれるまちづくりを目指し、市民の皆様の声を行政に反映するため議員活動を行ってまいります。

## 令和7年12月定例市議会が開催されました。

令和7年12月定例市議会が、12月3日から12月18日迄開催されました。

市からの提出議案「令和7年度飯塚市一般会計補正予算（第4号）」をはじめ各特別会計・各企業会計の補正予算14件、「飯塚市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例」等の条例議案15件、その他の議案10件、報告事項8件、請願2件、議員提出議案4件が審議される予定で開催されましたが、予備日を使っても会期内で全ての議案を審議することが出来ませんでした。（補正予算5件、条例11件、その他の議案9件、報告事項8件が審議未了。）

令和7年6月6日に議長が、飯塚市議会委員会条例第8条の委員の選出「常任委員、議会運営委員及び特別委員（以下「委員」という。）は、議長が会議に諮って指名する。ただし、閉会中においては、議長が指名することができる。」のただし書を根拠に議会閉会中を理由に各議員の意思を無視し勝手に、会議に諮ることをせず、議員間の調整を行わず、常任委員会委員を指名、議会運営委員については、各会派から届出名簿が提出されているにもかかわらず、委員を議長独断で指名しました。このことが原因で、全ての常任委員会、議会運営委員会が機能しない状況に陥って、6月定例市議会から、議案審議については本会議で全議員によって行っています。

12月定例市議会での議案審議では、審議に要する時間が長くなり、結果として、会期内で全議案の審議を完了することが出来なくなりました。

（会期の延長については、議員間で協議し議会事務局を通じて、議長に検討を要望しましたが、12月18日の会期最終日になって議長が市長の日程と各議員の日程について調整した結果、年末を控え調整が難しく会期の延長はできませんでした。）

審議未了の議案については、専決処分となり、次回の市議会に専決処分の承認議案として議会に提案されることとなります。（尚、各会計の補正の内容は、前期の実績に基づく経費の見直し、人事院勧告に伴う給与改定等の今後見込まれる所要額を補正するものとの説明が 있습니다。）

## 「江口徹議長に対する議長辞職勧告決議(案)」

## 24名中・賛成20名・反対4名で、3回目可決

令和7年12月18日開催の本会議で、江口徹飯塚市議会議長の議長辞職勧告決議案が提出され、正副議長を除く、24名中・賛成20名・反対4名で可決されました。

## 「ふくおか県央環境広域施設組合議会」

### 一般廃棄物処理計画について一般質問

処理基本計画に関連しての質問

令和4年3月に確定した「ふくおか県央環境広域施設組合・一般廃棄物処理基本計画」の「第3章ごみ処理の現状と課題」には、ごみの排出量は、平成27年度65,316tから令和2年度60,360tと減少傾向とあり、「第4章ごみ処理基本計画」で、令和4年度を初年度として、令和18年度までの2市1町の人口推計値とごみの排出量の将来見込みが記載されています。

ごみの排出量は、令和元年度63,780tから令和8年度61,205t・令和13年度59,869t・令和18年度58,531tと減少傾向になるが、ごみの排出量の約15.4%削減を目指し、令和8年度59,579t・令和13年度56,616t・令和18年度53,950tにするとされています。

現状、令和5年度から2つの焼却施設を稼働させていますが、令和5年度のごみ焼却量は桂苑14,240.26t・飯塚クリーンセンター44,359.68tの合計58,599.94t、令和6年度ごみ焼却量は桂苑13,200.39t・飯塚クリーンセンター42,811.28tの合計56,011.67tと1年間で2,588.27t減少しています。

今後、令和13年度・令和18年度の2市1町の人口推計値からごみ焼却量の推計値はどのようになると考えられますか。

答弁

住民基本台帳による人口は、令和5年度は、飯塚市12万4,429人・嘉麻市3万4,649人・桂川町1万2,777人、合計17万1,855人、令和6年度は、飯塚市12万3,604人・嘉麻市3万3,862人・桂川町1万2,729人、合計17万2,195人で、1人当たりの年間ごみ焼却量は、令和5年度約341kg・令和6年度約330kgと減少傾向で推移している。

令和13年度の年間ごみ焼却量は、54,025t・令和18年度年間ごみ焼却量は、52,119tに減少すると予想している。

災害廃棄物処理計画に関連しての質問

令和4年3月にふくおか県央環境広域施設組合では「災害廃棄物処理計画」を策定していますが、組合管内の災害廃棄物発生量推計のうち可燃物の災害廃棄物発生量推計の最大値は合計46,881tと記載されていますが、国ではこの災害時の処理は3年間で完了することが望ましいとしています。国が望ましいとしている処理完了には、年間何日稼働で、1日当たりの焼却量は何トンとなりますか。

**答弁**

令和4年3月策定の災害廃棄物処理計画では、災害発生後3年以内で処理を現在の2施設で完成させるため年間稼働日数280日・1日当たり最大約56tの処理を計画しているが、新施設建設以降は、290日稼働1日当たり最大25tの処理を考えている。

**質問**

計画では、最終処分場の最終処分可能量合計は、最大利用方式において20,449tであるため自区域処理できない災害廃棄物が約26,432tになるとの試算結果になる。このため対策を検討しておく必要がある。また、平時から残余容量の把握と計画的な利用の検討が必要になるとしてはいますが、その後の検討状況はどのようになっていますか。

**答弁**

令和7年4月1日現在の最終処分場残余容量は、可燃残渣1万7,969t・不燃残渣2万899tとなっている。このため万一の災害発生時に備え現在の既存処分場の残余容量は可能な限り確保し、副生成物の資源化を行っている事業者への情報収集と調整に取り組んでいる。

**カーボンニュートラルへの取り組みについての質問**

2030年度には2013年度比46%の二酸化炭素削減を目指して取り組みが進んでいますが、現在稼働の飯塚クリーンセンターは、燃焼補助剤として石炭コークスが使用されています。この石炭コークスをバイオコークスに代替えが出来ないか飯塚市議会で提言してきましたが、昨今バイオコークスの考え方も変わってきています。関係者に対してバイオコークス使用による二酸化炭素削減に取り組むように要望していくべきと考えますが、いかがお考えでしょうか。

**答弁**

カーボンニュートラル推進については、積極的に要望していくべきと考えている。

**紙おむつのリサイクルについて質問**

ごみ焼却の燃焼効率を上げるためには、ごみの含む水分を取り除くことが望ましいと考えますが、現在収集している紙おむつは多くの水分を含んでいますが、幼児のみならず高齢者の紙おむつの使用量が増加することが予想されています。既に紙おむつのリサイクルに取り組んでいる自治体がありますが、組合として紙おむつのリサイクルについての見解をお尋ねいたします。

**答弁**

紙おむつのリサイクルは有効な取組と考えるが、先進地の大木町では民間業者からの提案で実施した経過があり、組合としては今後引き続き調査研究に取り組んでいきたい。

## 第3次飯塚市環境基本計画に関連して一般質問

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の第6条の2第1項では、「市町村は一般廃棄物処理計画に従って、その区域内における一般廃棄物を生活環境の保全上支障が生じないうちに収集し、これを運搬し、及び処分しなければならない。」と定められています。これに関連して、第3次飯塚市環境基本計画のごみの処理について質問を行いました。

### 質問

2022年3月策定の第3次飯塚市環境基本計画では、基本目標Ⅲ「循環型社会・脱炭素社会を実現する」の施策方針4Rの推進として、現状と課題と取り組みの方向性について、「1人1日当たりの家庭系ごみ排出量」を2018年度686.3gから目標値を2031年度669.1gと2.5%削減するとされています。また、令和6年度の年次報告書では、令和5年度（2023年度）の1人1日当たりのごみ排出量は669.7gであったとなっていますが、ごみの排出量の減少化が進んだ理由についてはどのように考えていますか。また、令和6年度（2024年度）の排出量はどうなっていますか。

### 答弁

ごみの排出量が減少したのは、市民のごみ減量化の意識が醸成されていると考える。

令和6年度のごみの排出量については、環境省から公表されていないから示すことが出来ない。

### 質問

飯塚市が環境省に資料を提出している。

公表されていないから示すことが出来ないとは如何なものかと思いますが、人口の動態によりごみの排出量が変化しますが、人口の動態についてはどう考えられていますか。

### 答弁

令和7年2月に策定した第3次飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口将来展望では、2030年（令和12年）は、国立社会保障・人口問題研究所は、11万8,829人、本市独自推計では、12万892人となっている。

### 質問

その時点の、1人当たりのごみ排出量・まちの全体のごみ排出量についての目標値がわかるようにすべきだと思います。また、「ごみの処理過程（収集・運搬・焼却・埋立）では、多くの温室効果ガスが排出されています。」とありますが、排出量が減少することによって、（収集・運搬・焼却・埋立）の具体的な減少の状況と、結果としての温室効果ガスの減少の状況はどうなっていますか。

### 答弁

令和5年度から市内全域の可燃ごみは、クリーンセンター2 炉運転で処理を行っている。家庭ごみの排出量が減少することにより、ごみ処理施設に搬入されるごみの量も減少している。収集車両に積載する量が減少することによって使用燃料の減少が見込まれ、排出ガスの抑制につながる。また、処理量が減少すれば処理過程の燃料、助燃料の使用量の減少が見込まれ、発生する排ガス成分の抑制につながると考えている。

### 質問

令和5年度からごみの処理体制が変わっています。令和6年度の年次報告書は令和5年度の数字です。令和4年度に比較してクリーンセンターでのごみ焼却量は増加しているため石炭コークスの使用量も増え二酸化炭素の排出量も増えているのではないですか。

### 答弁

燃料は増えていると認識している。

### 質問

ふくおか県央環境広域施設組合の令和6年度施設管理状況調書では、可燃ごみ搬入量は3万5,644tとなっていますが、年次報告での1人当たりのごみの排出量の計算根拠を示して頂きたい。

### 答弁

家庭からのごみ排出量は、可燃ごみ・不燃ごみ・粗大ごみ等の合計は3万579tで、その中で焼却されたごみの量は2万8,141tで、令和5年10月1日現在の住民基本台帳の人口12万5,095人で算出し、1人1日当たりのごみ排出量は669.7gとなる。

広域施設組合の調書では、クリーンセンターへの可燃ごみ搬入量は、家庭系約2万8,074t、事業者系約7,419tの合計3万5,493tとなっている。

### 質問

この飯塚市環境基本計画には、事業系のごみ排出量については数値がない。

また、市内のごみ収集体制も令和5年度から変わっている。飯塚市の一般廃棄物処理基本計画の早期の見直しを行い、ふくおか県央環境広域施設組合の一般廃棄物処理基本計画と整合性のある飯塚市環境基本計画を作ることが必要だと思いますがいかがですか。

### 答弁

本市の環境基本計画・一般廃棄物処理基本計画は共通の目標・理念を持っている計画となっているが、ご指摘のとおり、計画の進捗状況を確認する指標の設定において目標値等の算定基礎数字に相違があるなど、細部において整合性を図る必要があるため、今後は統一していきたいと考えている。

## 飯塚オートレース場について一般質問

飯塚オートレース場メインスタンドが、令和7年6月21日にオープンし約半年が経過します。

来場者・売上状況の変化について、今後の各施設の整備計画についてはどう考えているのか市の考えを質しました。

### 質問

メインスタンド完成後の売上状況はどうなっていますか。

### 答弁

メインスタンドオープン後11月24日までの売上総額は166億8,230万円、1日の売上げは1億7,708万6,600円で、令和6年度1日平均売上げ1億5,240万円に比べ16.19%増加となっている。利用者の感想は、「きれいになった」・「明るくなった」。子ども連れの来場者が多くなっている。

### 質問

利用者を対象にアンケートを実施し、利用者の声を聞いて今後の施設改善やファンサービスにつなげ、より一層の集客増に努めてはどうですか。

### 答弁

利用者を対象に、意見を聞く目安箱を設置しているが利用されていない状況であるので、利用者の意見を聞くアンケートを今後実施していきたい。

### 質問

関係施設の整備を行い集客増に努めるべきではないかと考えますが、今後の整備計画について考えがあれば示して頂きたい。

### 答弁

今後の整備については、「選手管理ゾーン」「レース観戦ゾーン」「利活用ゾーン」に分けて考えている。

「選手管理ゾーン」は、選手・関係者のみが入ることのできるエリアで、選手宿舎・競走車保管庫・検査場・選手装身具室等については老朽化が著しく早急な対応が必要と考えている。

「レース観戦ゾーン」は、来場者と直接関わるエリアで、正門前駐車場、渡り廊下の整備、第3駐車場の改良が必要と考え現在検討を進めている。

「利活用ゾーン」は、第2スタンド等の現在使用していない施設があるエリアで、民間事業者との連携を視野に入れながら今後の利活用について考えていく。

## 菰田・堀池地区活性化事業の進捗状況について

令和8年度の完成を目指して令和4年度から5か年で飯塚駅周辺整備事業が、順調に進んでいます。

令和6年度には、桜ヶ丘踏切改良工事が完了し、現在、駅前広場整備事業・駅舎東西自由通路新設事業・城ヶ崎踏切改良事業等に着手しています。進捗状況は事業費ベース全体事業費見込額約40億7千万円に対して令和7年度決算見込額19億6,984万円で、進捗率は約48.4%となります。

城ヶ崎踏切の改良工事については、令和6年度に実施設計委託が完了し、令和6年度・7年度で用地購入を進めており、来年、令和8年度の工事を予定しています。



工事中の飯塚駅西側駅前広場から駅舎を望む



改良工事予定の城ヶ崎踏切を東側から望む